



田中 恵次

TANAKA Keiji

住友商事
常務執行役員関西支社長

混迷の今、アジアとの双方向の 関係構築をめざして

～コロナ禍におけるアジアとのつながり強化～



新型コロナウイルス感染症（以下、コロナ）が猛威を振るうなか、医療従事者を含め献身的に奮闘しておられる皆さまに深い感謝の意を表するとともに、罹患された方々の一日も早いご回復を祈念申し上げます。

当社では、いわゆるニュー・ノーマルに対応すべく、昨年3月から全社的に在宅勤務を導入し、リモートとリアルのベストミックスを追求しています。海外に関しても、渡航ができない状況のなか、十数カ国にいる当社の地域トップや投資先の社長を集めたトップ・ミーティングを開催しました。リアルであれば集まることが容易ではないメンバーが、ウェブだからこそ一堂に会し、有意義なディスカッションを行うことができるという発見もありました。また、本社からの支援が不十分であるがゆえに、逆に各地域の自立が進むというメリットもありました。ただし、人と人とのふれあいに関しては、ウェブでどのように温かみのあるコミュニケーションができるかを、新たなそして重要な課題として取り組んでいるところです。

昨年12月に発表された「関西ビジョン2030」のコンセプト、「先駆ける関西、ファーストペインギンの心意気」は、関西経済界の想いを凝縮した素晴らしいものだと思います。「オープンで独創的な価値を生む経済」「ヒトを惹きつける舞台」「新たな社会モデルのトップランナー」の3つが関西のありたき姿として掲げられており、その実現に向けた関経連の取り組みの方向性として示された「7本の矢」の一つが、「アジアをはじめとする世界との双方向のつながりの強化」であり、その一翼を担うのが「アジア・ビジネス創出プラットフォーム(ABCプラットフォーム)」です。アジアビジネス専門委員長として担当させていただいていることに、あらためて身の引き締まる思いであります。

ABCプラットフォームは、関経連が長年にわたる地道な活動を通じて構築してきたアジア各国の経済団体との協力関係がベースとなっています。2019年4月に第1回全体会議を大阪で開催し発足した時点では、5つの部会を設置しましたが、その後さらに2つ増やし、現在7部会で活動しています。その活動報告等を行う第2回全体会議を、本来なら昨年シンガポールで開催する予定でしたが、ウェブでの「トップ・ミーティング」に変更せざるを得ませんでした。リモートではありましたが、「コロナ禍を受けて、関経連との絆の重要性がより増した」と、アジア7カ国の経済団体トップの方々の期待がさらに高まっていることをひしひしと感じる、良い機会となりました。こうしたアジアとのつながりを深めるべく、具体的な活動としては、オンラインセミナーの実施、特設ホームページ上の各団体の活動状況の発信、国内外の企業・団体の技術・商材情報を掲載してのビジネスマッチング等、ウェブを活用したものを中心に行っています。

最後に関西への思いです。デジタル革命など日本が遅れているとされていた変革が、コロナというある種の外圧で急加速させられているように感じています。ある意味、明治維新や戦後の状況と似ており、日本復活のそして、新たな社会作りへの3度目のチャンスになり得るのではないかと思っています。一極集中の東京は変革するには大きすぎますし、首都圏災害時などのバックアップ機能も必要です。そこで関西の出番です。進取の精神や失敗を許容する文化などの資質を生かし、東京に対抗するのではなく、関西が独自の役割を担い、日本に貢献していく時がまさに今だと思う次第です。私も微力ながらその一端を担えるよう、関経連の、そして関西の皆さんと共に活動してまいりたいと思っています。

（談）